

相談員 杉澤 琴美

厳しい寒さが続いていますね。あうん利用者の皆さまも寒がりな方が多く、早く春の訪れを待ちわびています。

さて今号では、お正月明けでフレッシュな1月の活動をご報告します。



百人一首大会

室内で行う冬の遊びといえば、カルタ取りを思い出す方も多いのではないでしょうか。子ども時代、お正月に家族や親族が集まったときには必ず百人一首をやったと話す利用者さんが多くいます。

あうんでは冬だけでなく年間通して百人一首をレクに取り入れています。公式ルールはさておき、テーブルにバラバラに広げてお手付きも不問。最後に一番多く取れた方に拍手！という自由なルールです。

「昔取った杵柄」というのは偉大なもので、あうんに来るまで何十年も百人一首をしていなかった方もすぐに思い出すことができ、回数を重ねることで達人に変貌していきます。子どもの頃に覚えたことは年月が経っても薄れないものなのです。

あうんでは、昔から生活に馴染んでいた遊びを取り入れることで、安心して取り組むことができ、達成感や喜び、他者との交流を通して脳の活性化につながることを目指してレクを行っています。

残りの枚数が10枚ほどになると、読み始めるや否やのタイミングで取られることが多々あります。達人曰く「余韻でわかる」。そのため悟られないように読み手は工夫するのですが、それでもやっぱりわかる人にはわかってしまいます。これってもはや超能力？

新たな能力まで呼び起こしているかもしれません。



今年書き初め



毎年恒例、床の間に飾るための今年の干支の一字を筆でしたためていただきました！今年はお兔年。ウサギと言えば、多くの利用者さんが子どものころにペットとして飼っていたとのお話を伺います。戦争が激化する中、兵隊さんの外套にするため飼っていたウサギを供出しなければならなかったという悲しい思い出に、皆さん共感されています。また、少年時代に林に罾を仕掛けて山ウサギを獲ったという経験談も。たくましい！！

このように利用者さんにとって馴染み深いウサギ。今年の手紙も力強く書いていただきました。この立派な一字のように、飛躍の年にしていきたいですね！！



日々の食卓より



令和5年の始まりをお祝いする昼食は、ちょっとしたごちそうでした。お赤飯のきれいなピンク色は特別感を盛り上げてくれますね。皆さんご自宅でお正月料理を楽しまれたことと思いますが、筑前煮はもう飽きた…なんておっしゃらずに楽しく召し上がってくださいました。



赤飯、筑前煮、茶碗蒸し、お吸い物

こぼれ話

赤飯は甘納豆と小豆のどちらがお好きですか？

お祝いの食事を作るときにこの質問を利用者さんにすると、女性の方は「ぜったい甘納豆！」「普通は小豆でしょう」との返答になるのに対し、男性は「どっちでもいい」と答えられる方がほとんどです。実際に調理するのは女性が多いからでしょうか、面白い結果です。

世の中にのごちそうは多々あれど、家庭でのお祝いといえばお赤飯！と話される方が多いです。人生の節々で訪れるお祝いの思い出に、あうんの食事の風景を重ねていただけたら…と密かに願っております。